



世界自然遺産リスト記載登録推薦に伴う IUCNの西表島視察と意見交換会

2019年10月、世界自然遺産の諮問機関であるIUCN（国際自然連合）は、日本政府の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」の世界自然遺産リスト記載推薦に伴い、鹿児島県、沖縄県の推薦地各地の現地視察を行いました。JTEF / やまねこパトロールは視察に先立って報告書「西表島が直面する新たな問題と、進めぬ危機管理対策」を作成してIUCNに送付し、400種と日本で最も多くの魚類が確認されている浦内川の汽水域～河口が最も厳重に保護されるべき推薦地に指定されていない点や、同河川の橋梁架け替え計画についての問題点、さらには兼ねてから問題とされている観光管理計画の策定過程や内容に極めて問題があることについて報告しました。

10月12日には、現地視察の際に西表島で行われたIUCNとの意見交換会に臨みましたが、IUCN調査員からは西表島の河川と海には人工物がほとんどなくその連続性が保たれていることなど湿地、河川環境の健全性を評価する一方「海と河川の一体的な保護が必要である」という指摘がされたほか、「西表島の

水資源や廃棄物処理能力などを考慮した環境許容量を算出し、来島者を許容量内に収める具体的な仕組みをすべての利害関係者の参加のもと定めるべきである」という指摘がされました。これはJTEF / やまねこパトロールが世界遺産関連会議や報告書の中でこれまで指摘し続けてきた内容と全く同じ指摘です。7月の世界遺産委員会での遺産リストへの記載登録の可否決定までに各取り組みをどこまで進められるのか、これからの5か月にかかっています。

目次	巻頭言 … 1
	イリオモテヤマネコの 保全をめぐる動き2018 … 2
	2018年度 事業の概要と収支報告 … 3
	2018年度 事業報告（生息地支援）… 4・5
	2018年度 事業報告（普及啓発イベント）… 6
	2019年 事業計画と予算 … 7
	事務局日誌 / イベント・カレンダー … 8

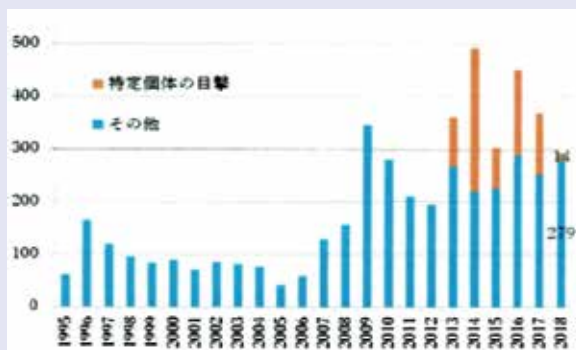
●イリオモテヤマネコの生息状況

2019年3月8日に石垣島の竹富町役場で開催された「平成30年度イリオモテヤマネコ保護増殖検討会」で2018年の島内低地部における生息状況が報告されました。

自動撮影モニタリングによる総確認個体数はオス39、メス14個体が確認されました。また昨年13年ぶりにメスの生息が確認された大富前良地区の北側でも継続的にメスの定住が確認されており、27のモニタリングポイント全ての地区でオス、メスの定住個体が確認されましたが、相次いだ事故によって船浦、北岸地区で個体識別されていた3個体（いずれもオス）が死亡しています。

●イリオモテヤマネコの目撃情報

2018年のイリオモテヤマネコの目撃情報件数は293件となり、6年ぶりに300件を下回りました。近年問題となっている繰り返し路上に出没する「特定個体」の目撃情報についても全部で14件と近年になく少ない結果となりました。2018年は9件と確認された事故数が最多の年ですが、繰り返し道路に出ていることが目撃されなくても、これだけ事故が起きたことは、ヤマネコが道路に出ることのリスクの大きさを実感させます。



年間目撃件数の推移
出展：平成30年度イリオモテヤマネコ保護増殖検討会配布資料

昨年東部地区では、集落まわり（大原、豊原）で幼獣、親子連れが目撃情報も寄せられましたが、2018年も中野公民館、大原港への坂道など、これまでにはほとんど目撃情報がなかった地域での目撃情報も寄せられています。また、2018年に発生した全9件（）の交通事故のうち、事故発生前に路上での目撃多発がみられたのは6月27日の浦内での接触事故時のみだったようです。特定個体が減った理由、目撃情報が減った理由については今のところ分かっていませんが、事故を防止するうえで一番重要な情報である目撃情報の収集に今後も力を入れていくとともに、どのような傾向が出ていくかについても引き続き注視してまいります。

●イリオモテヤマネコの交通事故

2019年に確認されたイリオモテヤマネコの交通事故					
年	確認月日	性別	年齢・特徴	区間	
2019	7/21	メス	幼獣	美原	死体回収
	10/30	オス	成獣	クーラー川東	死体回収
	11/4	メス	亜成獣	相良橋東	死体回収
	12/11	不明	亜成獣あるいは成獣	大富	逃亡

2019年のイリオモテヤマネコの交通事故は夏ころまで0だったものの、夏～冬にかけて立て続けに発生し4件となりました。7月21日に美原で事故が発生する直前には2頭の仔猫を連れている親猫が目撃されていました。また11月4日の事故発生前には、現場近くの自動撮影カメラで1頭の仔猫を連れて歩く親猫が映っていました。美原、相良は距離的にも近く、この母猫は同一個体の可能性が高いとみられています。つまり、美原～相良を縄張りとしているこのメス個体は、2019年に出産した2頭の子を夏と秋立て続けに発生した事故により失ってしまったこととなります。

また、10月30日に発生した事故については、現場を通りかかった島民の方より連絡を受けた高山が現場に駆け付け死体を回収し、西表野生生物保護センターに届けました。

近年は船浦海中道路より西の地区で事故が多い傾向がありましたが、2019年は北岸～東部地区での事故が多い結果となりました。



[事業の概要]

▶ **生息地支援**

[イリオモテヤマネコ生息地保全プロジェクト]

人件費を除く支援額その他経費：322,129円
(予算額：208,000円)
直轄事業

【目的】

西表島低地部におけるイリオモテヤマネコ生息地の保全

【概要】

- ・西表島低地部の土地利用に際して生息地保全のために配慮すべきことを調査し、関係機関へ提言する。
- ・ヤマネコを含む絶滅危惧種の回復を中心とした、生物多様性保全のための法制度を関係機関へ提言する。

[ヤマネコのいるくらし授業]

人件費を除く支援額その他経費：393,781円
(予算額：427,000円)
直轄事業(本部&西表島支部やまねこパトロール)

【目的】

西表島で、イリオモテヤマネコ/西表島の自然との「共存」を受け入れるだけでなく、一人一人が「共存」を日常生活の中で意識し行動するような社会をめざす。

【概要】

西表島の子どもたちに、小中学校の場でヤマネコの生態と社会を踏まえ、ヤマネコの立場に立って島の暮らしのあり方について学ぶ機会を提供する。大人への波及効果も重視する。そのためには、現場の教員が主体となった授業実践、学校側が組織的にそれを支える仕組み作りを促すことが必要である。そこで、以下の活動を行う。

- ・現場教員が本授業の意義とそれを実践する技能・工夫を身に着ける教員研修会の実施。
- ・教員の授業実践に関する相談、資料提供等の協力。
- ・各校が教員の授業を受け入れる環境整備。そのため教育委員会が研修会を公式行事化するようはたらきかける。
- ・教員による授業とは別に、必要に応じた出張授業の実施。

[交通事故防止対策]

人件費を除く支援額その他経費：1,567,373円
(予算額：1,133,000円)
直轄事業(西表島支部やまねこパトロール)

【目的】

イリオモテヤマネコの交通事故防止

【概要】

- ・地元の人々の自発的な協力のもとに、夜間、目撃多発地点をパトロールする。
- ・西表島の地元の人々、観光客に対して、ヤマネコの交通事故防止について普及する。

[イリオモテヤマネコの日事業 / JTEF西表島支部「やまねこパトロール」運営]

支出額3,437,645円(予算額：3,475,000円)
直轄事業(本部&西表島支部やまねこパトロール)

【目的】

イリオモテヤマネコの交通事故防止、イリオモテヤマネコの生息地に悪影響を与える、土地利用・観光客の活動の防止、イリオモテヤマネコの生活をかく乱する観察・撮影の防止

【概要】

- ・西表島の地域住民を対象としたシンポジウムの開催、観光客に対する教育普及ツールの開発
- ・普及等の教育普及活動を行う

* 活動の一部は、公益財団法人自然保護助成基金、キーン・ジャパン合同会社から助成を得て実施しました。

▶ **保全教育・普及**・・・6、8頁参照

▶ **チャリティー・イベントの開催**・・・6、8頁参照

▶ **会報発行**・・・年次報告書(2019年2月)、保護基金通信(2019年6月、10月)、各種SNS発信(Facebook、Twitter、Instagram)、ウェブサイト運営

[決算報告]

* **イリオモテヤマネコ保護基金 JTEF2018年度決算** (2018年11月1日～2019年10月31日)

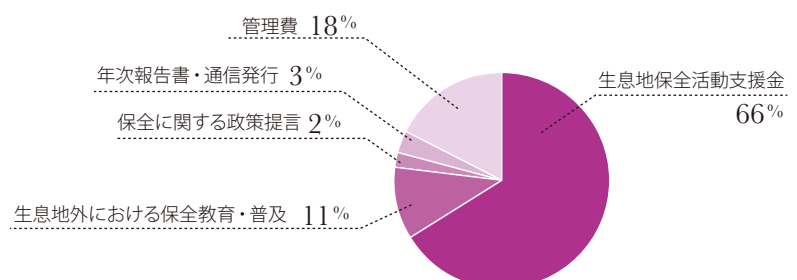
収益

	単位：円
正会員年会費	90,000
寄附金	5,923,604
助成金(セブン-イレブン記念財団及びパタゴニア)	2,005,100
受取利息・為替差益	280
合計	8,018,984

※共通の収益および費用は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの取支状況を考慮して適正に配分しています。

費用

	単位：円
生息地保全活動支援金	5,906,055
生息地外における保全教育・普及	961,357
保全に関する政策提言	207,392
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	287,645
管理費(人件費・水道光熱費・消耗品費、その他)	1,553,034
合計	8,915,483



イリオモテヤマネコ生息地 保全プロジェクト

2019年10月初旬、世界遺産再推薦に伴うIUCN（国際自然保護連合）による西表島視察にあわせ報告書「西表島の自然が直面する新たな問題と、進めぬ危機管理対策」を作成し、IUCN調査員に送付しました。また10月12日に西表島離島総合振興センターで開催されたIUCN調査員との意見交換会に参加しました。意見交換会の席ではIUCN調査員から西表島の観光管理計画について、西表島の入島者を環境収容力内に収める具体的な対策を含める必要があると指摘されました。



ヤマネコのいるくらし授業

イリオモテヤマネコ学習現地研修会

今回で4回目となるヤマネコ研修会を7月25日に東部、7月26日に西部で開催し、新しく西表島に赴任された教員の方々を中心に東西合わせて19名の参加がありました。今年も例年通りフィールドワークと座学を含めた一日研修で実施し、東京で行っているヤマネコのいるくらし授業研究会メンバーで東京学芸大学名誉教授の三石初雄先生の講義も行われました。また上原小学校で最初にヤマネコのいるくらし授業を取り入れてくださった池村久美先生によるエコクラブの活動についての紹介や、昨年度、授業を実践して下さった上原小学校の江郷下智美先生に昨年度の授業構成などについてお話して頂くとともに、学習発表会での子供たちの様子などを動画で紹介いただきました。



交通事故防止対策

夜間パトロール

JTEF西表島支部やまねこパトロールは、イリオモテヤマネコの交通事故防止を目的とした夜間パトロールを通年で実施しています。西表島の東部、西部に地元の人々からなるパトロールチームを編成し、イリオモテヤマネコを路上に誘引する原因ともなるカエルやヘビなど小動物の死体を除去しながら、交通調査（交通量とスピード調査）を実施しています。

2018年度（2018年4月～2019年3月）はヤマネコの目撃多発時の緊急パトロールを除き、114回の夜間パトロールを実施しました。平均速度は過去6年調査を続けている船浦海中道路東～後良橋西間で過去最低の41.5 km/hとなるなど、年々速度は低下傾向にあります。残念ながら速度の低下が事故の減少に結びつきません。より迅速で共感を呼びやすい目撃情報の発信、注意喚起の仕方など工夫をしてきます。また、安定的なパトロールを実施できるよう、新たにパトロール隊員を募集し、多くの島民に開かれたパトロール体制を構築していきます。

船浦海中道路東～後良橋西
自家用車・営業車
月別平均速度データ
年度比較

2013年度	45.9 km/h
2014年度	44.8 km/h
2015年度	44.9 km/h
2016年度	42.4 km/h
2017年度	41.8 km/h
2018年度	41.5 km/h

イリオモテヤマネコの日（4月15日）事業

イリオモテヤマネコの日記念シンポジウムは毎年開催していますが、2019年のシンポジウムは初めて東部、西部地区の両地区で実施されました。今回のシンポジウムは「これからのヤマネコ保護にもとめられること」とし、これまで島民に積極的に情報共有されてこなかったイリオモテヤマネコ保護についての各種取り組み（アンダーパスや路上侵入抑制フェンス）に期待される効果や課題を振り返り、今後さらなる対策が求められている情報共有のあり方や、草刈り作業、人馴れ対策についてパネリストの皆さんと議論しました。



参加したパネリストは

八重山地区交通安全協会 西表島東部支部長 玉盛雅治氏（14日）、
八重山地区交通安全協会 西表島西部支部長 三盛克美氏（15日）、
環境省西表自然保護官事務所 自然保護官 竹中康進氏（14日）、
環境省西表自然保護官事務所 自然保護官 北浦賢二氏（15日）、
竹富町政策推進課 課長補佐（現 竹富町 世界遺産推進室 副室長）仲盛敦氏、
JTEF西表島支部やまねこパトロール 高山雄介事務局長。

サポーターの皆さん、その他 多くの方たちに参加していただいたイベント



JTEF2018年度
EVENT REPORT

2019年2月9日&11日
かなざわバレンタインフェアトレード de
チョコまつり! に参加 @金沢動物園



「野生の」数10種の盛衰の歴史の果てに、アジアゾウとアフリカゾウの2種が今生存している背景、それにもかかわらず、それらが危機に陥っている原因、私たちに出来ることをお話しました。100組近い方たちに話を聞いて頂き、活動支援の募金にご協力いただきました!

2019年2月9日
竹富町やまねこマラソン大会
に出場&ブース出展 @西表島



スタッフ一同と、ヤマネコ保護に賛同して下さる皆さんの「チーム山猫パトロール」で走り、安全運転を訴えました。

2019年3月30日&31日
KEEN FEST Tokyoに参加
@代々木公園



やまねこパトロールを支援するフットウェアメーカー: KEEN のフェスでJTEF賛同者の坂本美雨さんが、イリオモテヤマネコ保護への支援を訴えました。

2019年5月3日&4日
金沢動物園インド祭りにブース出展
@金沢動物園



インドでのアジアゾウが移動するためのコリドーを守る活動、日本の象牙市場閉鎖のための活動などを紹介。ゾウのクイズも楽しんでもらいました。

2019年5月19日
東京西表島郷友会総会に
ブース出展 @川崎市総合自治会館



昨年のヤマネコ交通事故は9件と聞いて、「人だったら東京で100万人事故があったのと同じでしょう?」とおっしゃる方も。

2019年4月14日&15日
「イリオモテヤマネコの日」記念
シンポジウム @西表島大原&上原



これまで行われてきた様々な交通事故対策を振り返り、これからのイリオモテヤマネコ保護にもとめられることを地域の皆さんと一緒に考えました。

2019年7月28日
世界トラの日に、
野生のトラについて解説 @上野動物園



動物園ボランティアさんたちとともにブースを特設し、トラの前では野生のトラ保護についても解説しました。



2019年7月6日
JTEFチャリティーパーティー2019
@ピヤステーション恵比寿



アンジェラ/ラーガさんのインドダンスを堪能したあとは、皆も一緒にダンスを楽しみました。

2019年10月26日&27日
ディワリ・イン・ヨコハマ2019に
ブース出展 @山下公園



インドで行っているトラとゾウの保護プロジェクトを紹介。ヨガや料理のほかにもトラやゾウがいる野生のすばらしい自然も紹介しました。

2019年8月12日
世界ゾウの日に
上野動物園とトークショー @上野動物園



5日後に始まるワシントン条約会議に先立ち、日本が国内象牙市場を閉鎖しなければならないことを訴えました。また、あまり知られていない野生のアジアゾウの現状と危機についても解説。



● 昨年に引き続き、定期的なパトロール実施体勢を構築するために夜間パトロール参加者を募集するとともに、県道の草刈り作業をボランティアで定期的実施する体制を構築します。

● 竹富町教育委員会と共催で毎年行っているイリオモテヤマネコ学習現地研修会を今年も開催します。また、研修を受けた先生方が実際に「ヤマネコのいる暮らし授業」に取り組めるよう、必要な支援を行っていきます。

● 世界自然遺産リストへの記載の可否が決定する7月の世界遺産委員会まで、オーバーツーリズム対策を関係機関に求めています。

● ヤマネコの交通事故防止条例の制定を引き続き求めています。

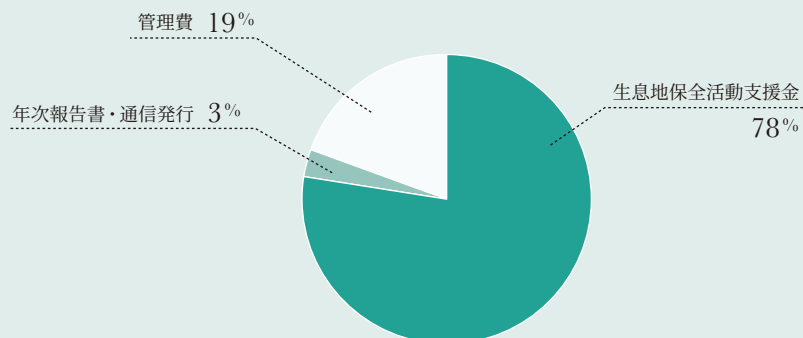
イリオモテヤマネコ保護基金 JTEF2019年度予算 (2019年11月1日～2020年10月31日)

予算：収益

	単位：円
正会員年会費	90,000
寄附金	4,125,500
助成金	3,000,000
補助金	500,000
合計	7,715,500

予算：費用

	単位：円
生息地保全活動支援金	6,000,000
生息地外における保全教育・普及	0
保全に関する政策提言	0
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	215,800
管理費(人件費・家賃・水道光熱費・消耗品費、他)	1,499,700
合計	7,715,500



※共通の収益および費用は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの予算を考慮して適正に配分しています。

- November 2018 -----
 11.2 緑の地球防衛基金 助成金贈呈式
 11.14 保全教育研究会
 January 2019 -----
 1.19 理事会・総会・交流会
 February -----
 2.2 竹富町立上原小学校学習発表会
 2.9 やまねこマラソン参加・ブース展示
 2.11 金沢動物園 イベント参加
 March -----
 3.1 保全教育研究会
 3.23 白梅 桜祭り ブース展示
 3.30,31 KEENFest ブース展示
 April -----
 4.14 イリオモテヤマネコの日記念シンポ (大原)
 4.15 イリオモテヤマネコの日記念シンポ (上原)

- 4.17 保全教育研究会
 4.20,21 アースデイ東京 ブース展示
 4.28 八重山祭り
 May -----
 5.3 金沢動物園 インドフェスタ ブース展示
 5.19 西表島郷友会 ブース展示
 June -----
 6.22 伊良皆幸吉 三線の会 ブース展示
 6.25 理事会
 July -----
 7.6 JTFF チャリティーパーティー
 7.25 西表島教員研修会 (大原)
 7.26 西表島教員研修会 (上原)
 7.28 世界トラの日 (東京・上野動物園) ブース展示

- August -----
 8.8 WILDAID 記者会見 (坂元登壇) (東京・日本外国特派員協会)
 令和元年度 第一回「世界自然遺産候補地域連絡会議 西表島部会」
 8.12 世界ゾウの日 (東京・上野動物園) トークショー
 8.17~28 ワシントン条約締約国会議参加 (ジュネーブ)
 September -----
 9.18 保全教育研究会
 9.28~29 ナマステインディア (東京・代々木公園)
 October -----
 10.3 西表島エコツーリズム推進協議会 参加
 10.12 IUCN 西表島調査における住民との意見交換会 参加
 10.25 EIA 記者会見 (東京・JTFF 事務局)
 10.26,27 ディワリイン横浜 ブース展示
 10.28 理事会

Media

- 11月3日_琉球新報:「自然遺産推薦結果 地元「振興のきっかけに」持続可能へ対策急ぐ声も」★やまねこパトロールの高山雄介事務局長は「正直、早いのではないかと。西表島で登録後の課題となる持続可能な観光に向けた取組は、着手はされているが具体化はされていないのが現状だ」「モニタリングを通じた適正な観客数等の把握や、法的拘束力のあるルール策定などを急ぐ必要がある」
- 12月4日_八重山毎日新聞:「イリオモテヤマネコの日 輪禍防止 事故対策条例制定へ」★認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金西表島支部やまねこパトロールの高山雄介事務局長は、観光客がヤマネコの生息域にむやみに入ったり、発見した個体に近づいたりしないよう、「観察方法のルール」づくりの必要性を訴える。地域住民が生活の中でヤマネコと遭遇する機会はずっとないが、入山を伴う自然観察ツアーなどで観光客が出くわすケースがあるからだ。このため高山事務局長は「発見時の対応や観察の方法をルールで定めてもらいたい」と話す。山の中でヤマネコに餌付けがされているというおぼえもあることから、「ヤマネコに餌付けをすることで人間や道路、車を恐れなくなることも考えられる」と不安視。実際、特定の個体が何度も路上で目撃されており、「ヤマネコを取り巻く環境は確実に変化している」と警鐘を鳴らす。
- 1月8日_Hakai Magazine Coastal science and societies:「島に棲む希少なヤマネコにとっての危険な名声」★世界遺産登録が迫る西表島が英語のウェブマガジンに、70年代の「人かヤマネコか」論争で、住民こそ守り手、住民を大切に訴え、人とヤマネコは共存可との信念を貫く津嘉山彦さん(やまねこ西部相談役)。ヤマネコと島の暮らしの将来への懸念を語る。



illustration by Mark Garrison

- 2月6日_毎日新聞:「日本の象牙取引禁止を アフリカ諸国提案」★トラ・ゾウ保護基金の坂元事務局長「日本市場は今も基本的にオープンで、違法取引の抜け穴が目立つ。現状では締約国会議で理解を得るのは難しいのではないかと指摘」
- 4月16日_毎日新聞:「輸出前提で「象牙」販売 国内70印章店 違法性認識も」★国内の印章店のうち、少なくとも70店で輸出を前提とした販売に応じていたことが、EIAとトラ・ゾウ保護基金の調査でわかった。輸出の違法性を認識しながら、販売しようとしていた実態が浮かんた。
- 4月16日_八重山毎日新聞:「イリオモテヤマネコの日 町条例でルール構築へ」★やまねこパトロール事務局長の高山雄介氏は、フェンスの維持管理体制、ドライバーの法定速度を順守について意見した。竹富町政策推進課の仲盛敦課長補佐は、町が制定を目指す「イリオモテヤマネコ交通事故対策条例(仮称)」でのルール作りを紹介。ヤマネコの慣れを助長する恐れのある行為の規制▽自動車の運行を伴う事業の適正化▽関係機関で連携した交通事故防止対策—などを盛り込む計画。今後、規制する行

為の科学的な根拠、どこからが違反行為なのかを明確化させ、住民・事業者・観光客にとって受け入れ可能か検証を進める方針。

- 4月29日_北日本新聞:「年間3万頭が犠牲、象牙市場に閉鎖圧力、ネット・店頭で広く販売」★JTFFは、空港隣接のモールで、海外に持ち出すとっている顧客に象牙印を売ろうとした大手業者の発言を録音したデータを公開。「大手小売業者のこの状況は、政府が国内象牙市場を管理できていないことを象徴する出来事だ」と指摘した。
- 5月19日_八重山毎日新聞:「浦内橋 生態系への影響懸念 やまねこパトロール架け替え工事で提言」★西表島唯一の県道は、浦内川を橋で越える。この浦内橋が新築時期に、住民生活上不可欠な工事である反面、10年の工期に大型工事車両が多数走行。主要ルートには、アンダーパスなど事故防止施設も無くヤマネコの事故多発、住民生活への影響も大。しかし、沖縄県は車の走行密度の予測評価すらしていなかった。
- 6月12日_毎日新聞:「象牙取引続く 日本の課題は: ★国際社会「合法」認めず 坂元雅行事務局長 NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」
- 6月20日_八重山毎日新聞:「先日、西表島上原地区で交通事故に遭い…」★JTFF 西表島支部やまねこパトロールが同島で実施した車両の速度調査で自家用車の75%、ツアー・送迎車の60%が制限速度オーバーとの結果が出ている。
- 8月10日_東京新聞:「象牙登録、厳格化前に急増 国際非難集まるの恐れも」★NPO法人トラ・ゾウ保護基金の坂元雅行事務局長は「厳格化前の登録で、密輸や違法取引された象牙が国のお墨付きで大量に流通する恐れが高い。市場閉鎖以外に根本的な解決策はない」と話す。
- 8月22日_朝日新聞:「象牙取引、日本に厳しい目線 迫られる市場の完全閉鎖」★トラ・ゾウ保護基金は、修正案について「国内市場閉鎖に向けて一歩前進した」とみる。「今回の会議で市場の完全閉鎖への鍵になるのは日本だという世界各國の認識ができた」と話した。
- 9月27日_朝日小学生新聞:「カワウソやキリンの保護強化 希少生物の取引を規制する「ワシントン条約会議」」★Q「絶滅危惧種を守ることに、なぜ賛成と反対が分かれるのですか」トラゾウ「絶滅危惧種をつかまえるのは、その生物が将来も生き残れる程度にとどめなければならない、という点では、多くの人が一致しています。でも将来の生存が危ない証拠がはっきりしない場合、『それならとって、取引してもいい』という意見と、『絶滅したら取り返しがつかないのだから、やめておくべき』という意見が対立します」Q「なぜでしょうか」トラゾウ「生物を利用した商売と、慎重な保護のどちらを重視するかで、意見が分かれるので日本でカワウソが絶滅し、アフリカでゾウが減少し続けているように、生物は大きく減ってしまつと、回復は簡単ではないことを子供たちに知ってほしいです。」
- 10月16日_毎日新聞:「アニマルクライシス:脅かされる奄美・沖縄の固有種」★NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」西表島支部やまねこパトロールの高山雄介事務局長は「世界遺産に登録されれば、観光客が増え餌付けなども心配だ。固有種を巡る状況が悪化する前に、条例などで保護ルールを定める時期に来ているのではないかと」指摘する。

JTFFやそのパートナーの活動 / コメントが掲載されました

イベントカレンダー

2020

「KEENFEST in SPRING LOVE 春風2020」

会場: 東京・代々木公園野外ステージ周辺 (SPRING LOVE 春風2020内)

日程: 3月28日(土) 11:00 ~ 20:00
 29日(日) 10:00 ~ 20:00 ※雨天決行



金沢動物園 春まつり

会場: 横浜市立金沢動物園

日程: 3月20~22日

開園時間/9:30 ~ 16:30 (入園16時迄)



アースデイ東京 2020

会場: 代々木公園 イベント広場・ケヤキ並木

4月18日(土) 10~19時
 19日(日) 10~18時半



イリオモテヤマネコの日 記念シンポジウム

日程: 4月15日(水)
 場所: 未定 (西表島)

JTFFを支える チャリティーパーティー

日程: 6月6日(土)
 場所: 「新橋亭」 (東京・新橋)

JTFFの活動をご支援ください!

JTFFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

★年間サポーター費・随時寄附のお支払方法★
 JTFFのウェブサイトからクレジットカードで簡単にご寄附いただけます。www.jtff.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。
 ゆうちょ銀行: 口座番号) 00170-7-355897 加入者名) トラ・ゾウ保護基金

トラ・ゾウ保護基金へのご寄附は、
 確定申告で納められた所得税の控除(還付)を申告できます

2019年1月1日以降2019年12月31日の間にいただいた年間サポート寄附と随時の寄附は、合計で2,000円を超える令和元年度の所得税の控除申告ができます。ぜひご活用ください。
 確定申告の受付は2020年(令和2年)3月16日(月)まで。お忘れなく!